

特別賞 「がんばったね」が教えてくれたこと

六年 杉田怜英

私が小学生になってから六年間、ほぼ毎日正門前の道路をわたって下校しています。そして道路にはいつもパトロールの方々がありました。パトロールの方々には私が小学一年生のときもいて、帰りに「さようなら」と声をかけてくれたり、ハイタッチをしてくれたりしました。

今年の五月、私達にとって小学校生活最後の運動会がありました。そして私のチームは負けてしまいました。しょんぼりしながら帰っていた時、声をかけてくださったのはあのパトロールの方々の一人である鈴木さんでした。そして、運動会はどこらが勝ったのかを聞かれました。自分は負けてしまったことも含め答えると、「がんばったね」とやさしくほえんで私を元気づけてくれました。私達のがんばりを家族以外の地域の方がみてくださっていたんだと実感でき、とてもうれしかったです。

あの出来事があってから新たにこの街の良さに気づけました。それは、この街ではとくに子供が大事にされているということです。

花プロジェクトや地域の行事などから、子供が大事にされているということが感じられます。また、地域行事は子供を含め大人も楽しめるように地域の方がき画してくださっています。

「がんばったね」という一言が、こんなにたくさんの方を教

えてくれました。緑園の街にはもっとたくさんの方があると、思いうのに、なかなか気づくことができません。それは、この街のいろんなところに良さがあふれていて、あたりまえのように感じてしまうからなのかもしれません。でも、何かをキツカケに自分の街の良さを見つけることができます。私にとってそのキツカケとなったのはあの「がんばったね」という一言でした。そして、この良さを見つけたからには、私達子供にも何か恩返しができないかと思えました。今、国語の授業で私達の街の良さをガイドブックにまとめる学習をしているので、この学習でこの街の良さをたくさんの方に伝えて、この街に恩返しができるといいなと思います。

特別賞 自然と向き合う

六年 櫻木陽也

緑園は、名前の通り緑溢れる町だ。どの季節でも、いろいろな自然を見ることができる。

春。生垣の上を覆うツツジに、その上で戯れる蝶たち。花壇に植えられた、入学式を思わせる、春の象徴チューリップ。地面にうつるこもれびの間を通り過ぎるトカゲ。他の町では見られない美しさがある。

夏。最近の町ではあまり見られないカブトムシも、緑園にはよく飛んでくる。僕が住んでいるサンステージのそうじをしてくれ

る方たちは言う。「緑園の自然からは元気がもたらせるね」

秋。道路の両側のいちよう並木は黄色く色づき、公園のみじは赤く紅葉する。マンシヨンの部屋からだって、カラフルな葉がつくるきれいな模様を楽しめる。

冬。葉が散った木々も、僕たちに季節を感じさせてくれる。春が近づくと、いろいろな植物の芽をよく見かける。それを見ると、励まされる気がする。

しかし、最近切られた木をよく目にする。病気で倒れるおそれがあるからだ。生け垣も、街灯や標識をたてるために切られたりする。

今、「自然を急いで元に戻さなければいけない」ということがよく言われる。でも、僕はそう思わない。病気の木は、最後まで面倒を見る。生け垣は、移植する。飼っているものは、責任をもって死ぬまで飼いつける。

今残っている自然を大切にすることは、僕たちにもできることだ。失われた自然を追い求めるのではなく、残された自然と真摯に向き合うことが、緑あふれる緑園を取り戻す第一歩だと僕は考える。

優秀賞 街の一員として私たちができること

六年 佐藤那菜歌

私が住んでいる緑園都市は子供が少なく大人やお年寄りが多い街です。近年子供の数がへり今年の緑園東小学校一年生は四十人でした。子供は少ないけど私たちは地域の人に大切にされています。地域の人はパトロールをしてくれたり学校の行事を手伝ってくれたりします。絶対に私たちだけではひらけない行事も地域の人のおかげでみんなが楽しめるし笑顔になれます。私は高学年になるにつれ街は安心でかわいがられているということはあるたりまえのことではないと思います。私には中学一年生と小学五年生のいとこがいます。私のいとこは川崎に住んでいて中学生のいとこは卒業しましたが卒業するまで通っていた小学校はとても子供が多く一年生から六年生まで一学年五から八クラスあります。そのため緑園のようなパトロールは少ないです。そして緑がとても少ないです。なぜこんなに緑園とちがうのだろうかふしぎに思いました。

緑園が緑豊かで安心できるのは私たちが地域の人たちにたよりすぎているのではないかと考えました。地域の人是我たちのためになにもかもつくしてくれます。たしかに安心できるけど地域の人たちはつかれてしまいます。私たちがいつも笑顔にさせてくれる地域の人たちを今度は私たちが地域の人たちを笑顔にさせて

あげたいと心から思いました。そこで私は小学生が主催して地域感謝の会を作れば地域の人を笑顔にさせられるかもしれません。まだ地域の人とあまりかかわったことがない人でも地域感謝の会を行い参加することでひごろ地域の人にどれだけ愛されているか、感謝の気持ちをあらためて感じられるかもしれません。そして私たちが大人になったとき緑園都市に帰りたいと思える街にしていきたいと思います。これからの緑園都市を守り続けていくには地域の人たちと私たちがたがいにみとめあつて一人一人が緑園都市を愛し守っていきたいと思わなければよい街にはなりません。そのために私たちが地域感謝の会をひらいたり緑園の街カフェや学校のおまつり、地域のおまつりに参加したり自らあいさつをしたりして協力してよい緑園都市を作っていきたいです。

優秀賞 未来を照らす私たち

六年 近藤彩香

この街の魅力は子どもから大人までみんなが明るくそして仲が良いところです。毎年、緑園東小学校の児童数が少なくなってきたり、校長先生がおっしゃっている「人数が少ない分、一人ひとりがのびのびできてかがやける。」ということは私も感じています。

たとえば地域防災訓練で地震や火事が起きたとき、どう対処し

たり行動したりすればよいかを緑園消防出張所の方がきて直接教えてくれました。オリジナルの振り付けを使って体で覚えたり、たんかやスリッパを地域の人と一緒に身近な物を使って作ったりしました。人数が少ないので全員に指示が行きわたり地域の方ともよい交流になったと思います。また、毎週金曜日の下校時には地域の方たちが青パトカーや信号の無い横断歩道に立ち、私たちの安全を見守ってくれています。それに毎日名瀬を登校するときに見守ってくれるので安全に通れます。このように私たちは地域の方たちに支えられて過ごしています。だからこそ、緑園東小の最高学年として私たち六年生は「態度」と「行動」を大切にしなければなりません。具体的には、積極的にあいさつをしたり地域の行事に参加したりすることが大事だと思います。地域の方たちとの仲を自分たちから深めること。この姿を五年生に示し、受け継いでもらうことが私たちの役目だと思います。そして、まさしくまちの未来を照らしていくのだと思います。このことを忘れずに残り少ない小学生としての時間を過ごしていきたいです。そして、この緑園東小学校を卒業したとしてもこの町を明るく未来に導くのは私たちだということにはかわりないと思っています。なので大人になったら今度は街の中心となりこの街がよりよくなるために地域の人と協力をして力を注いでいきたいです。そして、たとえ何十年もの時を経てもこの街には笑顔であふれ明るい活発な街であってほしいです。

入選 地域のひととの関わりをふやそう

六年 大場心温

高学年のわたしたちは、緑園のたくさんの行事に参加して地域のひととの関わりをふやすべきだと思います。なぜなら、私が緑園の色々な行事に行っても、六年生にあまり合わないからです。その姿から私は、地域のひととの関わりが少ないのではないかと考えました。だから私は、緑園にはどんな行事があるか深く考えてみました。

一つ目は、連合運動会です。その運動会では一丁目から七丁目の人が緑園東小の校庭で丁目ごとにみんなと協力しながら競技を行います。この行事は同じ丁目のひととの仲をふかめ合うことができ、他の丁目のひととも関わるることができます。

二つ目は、緑園夏祭りです。この夏祭りは緑園東小の校庭で、丁目ごとにやりたいを出しています。あと、東小の子ども一年生から六年生がソーランをおどったり六年生は、アラメヤ音頭をおどって夏祭りを盛り上げています。

三つ目は、街カフェです。街カフェは緑園ライフで東小の五・六組の人たちが作った野菜と、パン屋さんがコラボして野菜のパンをうったり、市川さんが作った街カフェのキャラクターのまちクマくんのパンをつくって、うっていたり、去年は東小のキッズクラブの手芸サークルの人が自分達で作ったストラップなども

うっていました。しかし、楽しみにしていた街カフェが今年からなくなってしまう。緑園の行事が一つへってしまったことから地域のひととの関わりが少なくなっていくのではないかと少し心配になりました。だからこれからも地域のひととの関わりが少なくならないように街カフェを復活させてほしいと思います。もし復活したらたくさんの友達と街カフェをもち上げたいです。

私は、あらためて緑園にはたくさんの行事があるなど感じました。この他にも、フェリス女学院大学の文化祭や名せのお祭りなど緑園にはたくさんの行事があります。私もまだいったことのない緑園の行事もありますが、これからは積極的に参加をして地域のひととの関わりをふやしてすてきな街にしていきたいです。

入選 便利さと楽しさがつまった緑園の町

六年 室井結菜

緑園のまちは、便利さと楽しさの両立が素晴らしいと思います。駅の方には、スーパー、本屋、文ぼう具屋、お花屋、塾など、生活に必要なお店がたくさん立ち並んでいます。私が前に住んでいた所は、少し遠くまで行かないと行けないお店があったり、病院に行くのに時間がかかったりしました。それに比べて緑園の町は、家から少し歩くだけの駅に、内科、眼科、耳鼻科などさまざまな種類の病院がそろっています。それに食料品や生活に必要な物が、

身近で売られているので、町に住むご高齢の方々や、私たちにとつても大変便利だと思えます。私も、駅の方に行く時があつて、しかも駅という行きやすい所にあるので、よく行っています。

お店はそろつていても、さすがに自然や環境までそろつている町はそうそうないと思えます。緑園の町は、生活に必要なお店が充分にそろつているにもかかわらず、たくさんの自然にめぐまれています。緑園の町の中にある、サンステージでは、色々な種類の植物が植えられています。春には桜、夏にはすずしい日かげと、カモの産卵、秋はきれいな紅葉が見られます。ふつうは、あまり見られない光景が、身近に存在していることをほこりに思います。歩道などにも植物が植えられています。

それに合わせて、緑園の町には子どもたちの遊び場になる公園がたくさんあります。サンステージの中には、ぐるぐる公園や、バスケットゴールがある公園など、充分に楽しめる公園がいくつもあります。他に、子ども自然公園などもあります。インターネツトやスマホが普及してきている時代ですが、子どもたちの遊び場がたくさんあつて、いいと思います。一方、修理や工事中の公園もあります。たとえばすごい公園だと、遊具の修理をしています。それはきつと、地域の人たちの思いやりなんだと感じます。

緑園の町は、お店もそろつていて、自然豊かな町の上に、子どもたちに大切な公園もたくさんあります。この何不自由ない、すてきな町に住んでいて、よかつたなと思う時があります。この先、

緑園の町がもつとすてきになってほしいと思いました。

入選 あいさつからつながりは始まる

六年 山田優依

私は自分の住んでいる、ふるさとであるこの町を未来につなげていくためには地域のつながりをもっと深めることが重要だと思ふ。昔はたくさんの地域でみそやしょうゆを近所の人に貸し合つていたと聞いたことがある。今ではもう、そのようなことをしている家はほとんどいないだろう。

しかし、私の家の近所の人たちは優しい。なぜなら、雨が降つたときに洗たく物が外に出ているらインターホンを鳴らして、

「洗たく物出ますよ。」

と教えてくれるからだ。そういうことをしてくれる人は周りには少ないのではないかと思ふ。都心ではなおさらだ。私の家族はその一言でとても助かっている。

今の日本にはそういう心配りができる人が必要だと思う。私は近い将来、AIに仕事をとられ、今ある職業のほとんどは不要になると聞いたことがある。ただ機械的に作業するだけならば、AIのほうがずっと効率的だ。そんなことだから将来ほとんどどの仕事がなくなくなるのだ。だから人間にしかできない、心が温かくなるコミュニケーションを身につけた人間がこれから先を生き延びけるのではないか。別に無理にみそやしょうゆのゆずり合いをし

ようというわけではない。急にそのようなことを言っても無理だろう。でも、パソコンやスマホが普及した今必要なのは私の家のような「人と人」とのつながりだと思う。

その第一歩として、まずはすれちがう地域の人とあいさつをすることから始めたい。そうしたら、よく見る人が知り合いになるかもしれない。あいさつなら簡単だから、小さい子からお年よりの人までできる。そうすれば地域のつながりは深まり、犯罪対策にもなるだろう。そして何より、町を歩く自分が楽しい。地域のつながりは、あいさつから。

入選 あいさつと四季の道

六年 後藤優空

私が、緑園都市で一番好きな場所。それは四季の道です。四季の道は、春・夏・秋・冬変化があるので、色々な気分です。いつ通ってもあきません。私は、習い事に行く時や、駅に行く時など、絶対四季の道を通ります。その理由としては、自然を感じられるということと、あいさつです。四季の道を通ると必ず、高れい者のかたや、赤ちゃんをつれているお母さんなどに会います。「こんにちは」とあいさつしたり、先にしてくれたり。あいさつをするのと、思いがけないところで、地域のかたたちと、コミュニケーションがとれるのです。私は、最初は、あいさつは、はずかしくて出来ませんでした。けれど、ある時地域の人が、「こんにちは」と

あいさつをしてくれました。続けて、私もあいさつをしたけれど、なんか、心の中がモヤモヤしていました。自分から言えたら、カッコいいのにな。そう思いました。誰かに先に言われる前に、自分から言うようにしてみました。これをきっかけに自信がついて、いろいろな場所でいろいろな人とコミュニケーションがとれるようになりました。私は、やっぱり緑園の町が大好きです。高齢化が進んでいく中でもこうやって、ちよっとのあいさつが、少しずつ日本の何かを変えてくれるかもしれません。

私は、これからも、たくさんあいさつと、たくさん緑に囲まれながら、今を、思いっきり楽しみたいと思います。